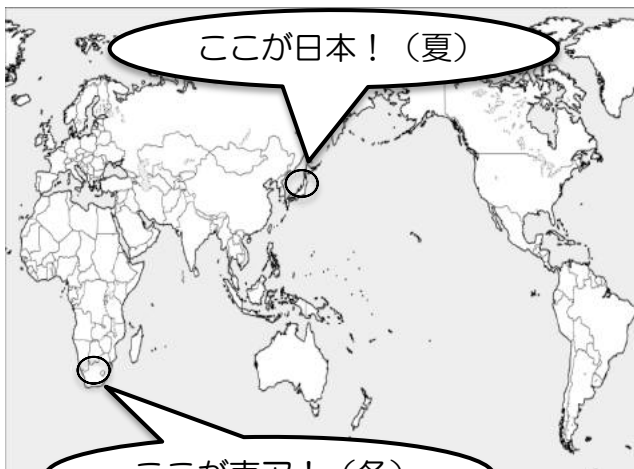




わたしは、さいたま市で教員きょういんをしている鈴木壮太すずきそうた もうと申します。この7月しちげつから、青年海外協力隊せいねんかいがいきょうりょくたいとして南アフリカ共和国みなみ きょうわこく なん（南ア）という国にきています。これから1年9ヶ月間、この国の小学校はたらで働くので、みなさんにこの新聞を通してアフリカのことを少しでも知ってもらえたら嬉しいうれです。

まず、南アフリカ共和国ってどこ!?



南アフリカ共和国は名前の通り、アフリカ大陸の南にあります。日本から飛行機で約20時間かかります。この国ではおよそ11個もの言語が使われています。そのため、生活していると色々な言語が聞こえてきます。

～スワジ語にチャレンジ～

今は、プレトリアという大きな街まちでスワジ語という言葉の勉強をしています。私がこれから行く小さな町の低学年の子どもたちは英語を話せず、スワジ語を使うからです。私はこれから、低学年はスワジ語、中、高学年は英語で授業をします。ちなみに、題名のSABONAは、“こんにちは”という意味です。たまに使ってみてください。

ところで、南アは都会なの!?

みなさん、アフリカというと野生のサイやキリンなどの動物がたくさんいるイメージがあるかもしれません。私もアフリカに着いたときはキョロキョロしながら野生の動物を探しました。しかし、小鳥こどりにしか会えませんでした。南アの首都しゅとはアフリカの中でも発展はってんしていて、日本と同じように何でもあります。大きなショッピングモールや、本屋、マクドナルド、映画館えいがくわんもあります。しかし、田舎いなかの方は発展していません。私はまだ都会の方にいますが、もう少しで田舎いなかに引っ越ひっこします。最近一度行って様子ようすを見に行きました。果たしてどんなところなのでしょう。野生の動物がたくさんいるのでしょうか。家のお湯は出るのでしょうか。スーパーはあるのでしょうか。次は田舎の様子と学校での出来事をお伝えします!



立派な本屋!



大きなモール!

次の新聞も読んでくださいね。





2017年9月 南アフリカ新聞第2号

# SABONA

ニサボナ（こんにちは） 鈴木 壮太

夏休みが終わってよいよ2学期が始まりましたね。充実した夏休<sup>じゅうしゅう</sup>みを過<sup>す</sup>ごせましたか？宿題も無事に終わりましたか？

南アは冬の終わりが近づき、春に向けて気温が暖<sup>あたた</sup>かくなってきています。今回は、私の住んでいる場所と学校の様子<sup>ようす</sup>について紹<sup>しょう</sup>介<sup>かい</sup>します。

ここに住んでいます！！



家の前①



外の水道



家の前②

ムプマランガ州というところに来ました。首都とは違い、大きな建物や立派なお店はここにはありません。何と言っても洗濯<sup>せんたく</sup>が大変！外にある水道で手洗いをしなくてはなりません。

住んでいるところはとてものどかで、ご近所<sup>よさ</sup>さんも優しくしてくれます。

今はスクマンスダル小学校というところで算数と英語の授業をやっています。幼稚園<sup>ようちえん</sup>の年長から中学3年生の子どもたちがこの学校に通っています。

さて、アフリカの1日の小学校の様子<sup>ようす</sup>を見てみましょう。

## ～スクマンスダル小学校の1日の様子～

7:00 登校



多くの子どもたちがだいたい朝の7時に学校に着きます。ちなみに登校班<sup>はん</sup>はありません。このようにみんな制服<sup>せいふく</sup>を着ています。

7:20 授業開始！



日本の小学校の多くは1つの授業が45分間ですが、南アでは1つ60分間の授業です。そして授業の間の休み時間はありません。朝の会<sup>けんこうかんさつ</sup>や健康観察はなく、いきなり1時間目が始まります。9時20分までずっと授業です（3時間）…。3人で1つの机<sup>つくえ</sup>を仲良く使います。

9:20 やっと休み時間！



みんなこの時間にお昼ごはんを食べます。早すぎる！給食を食べる子、お弁当を食べる子、売店<sup>ばい店</sup>でごはんを買う子、色々です。ごはんは毎日外で食べます。給食を食べたら自分で食器を洗います。

10:00 授業開始！

休み時間なし！授業が長くて、トイレに行きたいときに困ります…。

13:40 授業終了！



長い授業が終わると、片付けをし、そして当番がそうじをしてみんな下校します。帰りの会はありません。これがアフリカの小学校の1日のようでした。ずいぶん日本とは違いますね！

次回は南アのごはんや、物の値段<sup>ものねだん</sup>について紹介します♪



2017年10月 南アフリカ新聞第3号

# SABONA

=サボナ(こんにちは) 鈴木 壮太

10月になり、食欲しょくよくの秋がやってきました。栄養えいようたっぷりの給食をしっかりと食べてすくすくと成長しましょう。

一方南アは、夏が始まりどんどん暑くなっています。今回は南アの給食(お昼ご飯)を紹介しょうかいします。日本のご飯と比べながら読んでみてください。

## 給食って一体何を食べてるの!?

第2号の新聞では給食について少ししか書くことができなかったので、今回は詳しくくわ紹介します。まず、児童は給食、売店、お弁当、の3種類の中から自分の昼食えらを選ぶことができます。8割わりの児童が給食、1割がお弁当、1割が売店というのが、おおよその割合です。給食費はなんと0円!



パップに牛乳を混ぜたもの

写真は南アの主食であるパップです。日本でいうお米にあたり、伝統料理です。パップはとうもろこしの粉と水を煮て、こねたものです。味はお米に少し似ていて、食べやすいです。そしておどろ驚くかもしれませんが、手で食べます! アフリカではいっぽんてき一般的な食べ方で、私も毎日手で食べています。



これはかぼちゃ! 大人の手のひらくらいの大きさです。かじりつきます。



白米、野菜炒め、スープです。アフリカのお米はパサパサ!



はし、スプーン、フォークはありません。手で食べます。アチッ! ってるので注意。



給食室はありません。雨でも外で給食を作ります。屋根があるから大丈夫!



5人で給食を作っています! いつも楽しそうな笑い声が聞こえてきます。



食べ終わったら自分で食器を洗います。



売店にはクッキーやキャンディー、スナック菓子などが売っています。



先生たちの給食。ほとんど毎日パップと鶏肉です。



かぼちゃの葉っぱとピーナッツミルクを和えたもの。伝統料理のひとつ!

今回は、南アの給食や食事についての紹介でした。日本とは、こんなにも食事の文化が違うのです。(日本の食事が恋しい。)でも、アフリカの人たちがいつも何を食べているのかずっと気になっていたの、毎日とても勉強になっています。次回もよろしくお願いいたします。



日本は11月になり寒くなってきたと思いますが、みなさんは寒さに負けず校庭でおにごっこしていますか？

一方私は、暑さに負けず毎日クーラーのない場所で汗をかきながら生活しています。そして今回は南アでの買い物について紹介します。

村のみんなはいつもタクシーを使う！？



日本でおなじみのトヨタの車です。日本の車は南アでも人気です。



南アの国旗がプリントされているので見つけるのに便利です。

買い物などで移動をするときは、みんなタクシーを使います。でも、タクシーは快適だけど料金がなくてちょっと…。いえ、南アのタクシーは驚くほど安いのです。例えば、日本で5千円かかるところを南アでは2百円くらいで行くことができます。しかし、この車には15人のお客さんを乗せることができますが、全員集まらないと出発しません。集まるまで待ちます。長いときは1時間くらい待ちます。みんないららせずにゆっくりと待ちます。

いなか 田舎のスーパーはこんな感じ！



私の家からタクシーで5分走ったところに立派なスーパーマーケットがあります。毎週ここで食べ物を買っています。さて、建て物の中はどうなっているのでしょうか。少し見てみましょう。



①



②



③

どっさり！

たまねぎ10個80円  
ピーマン1キロ85円

種類が豊富な  
ヨーグルト！

- ① この大きな箱に入っているのがキャベツ！売り方が大胆。
- ② 野菜やフルーツがたくさん売っています。そして安い！夏になると多くの家庭の庭でマンゴーがたくさん取れます。欲しいと言うとくれるそうです。
- ③ おいしいので毎朝食べています。お気に入りはバナナ味です。

買い物も、移動も、日本と比べると不便に感じる事がたくさんあります。しかし、ここに住む人たちの多くは、そのような環境の中でも明るく、陽気に、そして幸せに暮らしています。私はいつもそんなアフリカの人たちを見習ってここで生きています。

次回もよろしくお願ひします。



2017年12月 南アフリカ新聞第5号

# SABONA

ニサボナ（こんにちは） 鈴木 壮太

12月になり、冬休みが近づいてきましたね。冬休みといえばクリスマスにお正月！わくわくしていますか？

まずは期末テストを頑張りましょう。

一方南アでは夏休みが始まりましたが、これまでの約4ヶ月間学校で働いてみて、驚いたことをまとめました。日本と比べながら読んでみてください。

## 驚いたこと1

### 真っ暗



見ての通り、授業中なのに教室の中は真っ暗。教室に電気があるのに、なぜつけないのでしょうか。聞いてみると、「電気をつけると暑い！」とのこと。しかし、教室の中は太陽の光だけでも意外と明るい。

## 驚いたこと2

### 休けい



授業中の様子。担任の先生はどこにいますか？授業中なのにどこにもいません。私のいる学校では、先生が疲れたと感じたら授業をしないことがよくあります。児童に自習をするように伝え、先生は庭の木陰で休んだり、みかんを食べたり。毎日のように長い自習時間があるクラスも…。

## 驚いたこと3

### 向き



ノートの向きに注目してください。ノートを縦に置いているのがわかりますか？小さな机を3人で使うため、1人分のスペースが狭く、横に置きにくいのです。書くときの正しい姿勢を学校で教わらないことも原因の1つかもしれません。大人でもこのような書き方の人をよく見かけます。

## 驚いたこと4

### 牛



登校しているときの写真です。大きな牛がモーモー鳴きながら前を横切っていきます。子どもたちは何も気にせず歩いていますが、私は牛がこっちに来るのではないかとビクビクしながら歩いています。

## 驚いたこと5

### 時間



中にはこんな時計も…。

学校にある時計は全て止まっています。（みんな普段の生活で時間を気にしない。）そのため、授業の始まりと終わりはベルが合図です。（しかしそのベルも時間通りでない…。）そのため、「今から10分間で〇〇しましょう。」などの時間の指示ができません。日本の学校は時間で動きますが、こちらでは雰囲気（ぶんいき）で動きます。

それではみなさん、冬休みを楽しんでください。私もまた新しい発見をして報告（ほうこく）します。



明けましておめでとうございます。充実した冬休みを過ごせましたか？一方南アでは夏休みが終わり新学期（1学期）が始まりました。今回も前回に引き続き、驚いたこと（学校編Part2）を紹介しします。

### 驚いたこと6

## マグネット？



何かの部品に使われていた巨大なマグネット。重いし大きい。使いづらくないかと聞くと、「大丈夫。叩いて割れば小さくなるから！」とのこと。確かに！しかし、やはり日本の100円ショップのマグネットのありがたみを感じます。

### 驚いたこと7

## そのまま



教室の窓ガラスが割れています。でも修理されることはありません。雨が降ると窓側の席の児童の机、ノートがびしょびしょに…。席を前にずらしたり、いろいろな紙で抑えたりと、窓側に座る場合は工夫が必要です。

### 驚いたこと8

## タイミング



みかんきたー！！

お手伝いさんがみかんを配っています。なぜか休み時間ではなく授業中に配ります。そのため、子どもたちの集中の方向が授業からみかんへと移り変わります。その後はみかんをコロコロさせたり、ツンツンしたり、その調子で落としたりとクラスがざわつきます。やっと静かになった頃には授業の残り時間5分なんてことも…。

### 驚いたこと9

## 青空授業



こんなところに黒板が！あるクラスが机と椅子を持ってきて青空の下で授業をしています。なんだかいいな～。初めはそう思いました。しかしわずかな日陰の中に我先に入ろうと、陰の取り合い。児童の額ににじむ汗。舞う砂埃。ぐらつく机…。やはり授業は教室でするのがよさそうです。

### 驚いたこと10

## ごちゃごちゃ



これは児童の机の様子です。無理もありません。引き出しがないのです。全員のノートや教科書は教室の後ろで保管されているため、授業ごとにそれらを集めたり配ったりします。全員分が一度にそろえることはなく、自分のがないという子がいたり、後ろに探しに行く子がいたり、授業を始めるまでに10分はかかります。

このように思うようにいかないことも多いです。でもそれがアフリカ。次なる作戦を！！



2018年2月 南アフリカ新聞第7号

# SABONA

=サボナ(こんにちは) 鈴木 壮太

こんにちは!今回は、夏休み(1月)に行ったスワジランド王国という国を紹介(しょうかい)します。ここは南アフリカ共和国とモザンビークという国に囲まれた小さな国です。自然が多く、町はきれいで(ほんいき)のどかな雰囲気でした。



スワジランド王国の国旗がこちら。

## スワジランド王国ってどこ?

スワジランドが見つかりますか?この国はとても小さな国で、日本の四国地方よりも小さな国です。そして驚く(おどろ)ことに、この国では王様が国をまとめています。だから“王国”(キングダム)なのです。王様はみんなから尊敬(そんけい)されています。



## 国境を越えよう!

日本から海外に行く時は飛行機で行くことがほとんどだと思いますが、スワジランドは南アの隣(となり)にあるため、歩いて国境を越えることができます。



ゲートを越えて、いざ、スワジランドへ!

## 先生たちの勉強会(研修)

3日間スワジランドの理科(高校)の先生と一緒に、理科や、授業の仕方の勉強をしてきました。先生たちは、もっと良い授業ができるようになりたいと、進んで学びます。



授業に役立てるために、実際に実験をしたりグループで問題を解いたりしていきます。

先生たちは研修の間、ここに泊まります。ろうかとても長く、なかなか建物にたどりつきません。

高校時代を思い出して取り組みました。

## ★おまけ(アフリカのお金の紹介)

- ・上が日本のお金(円)
- ・真ん中がスワジランドのお金(エマランゲニ)
- ・下が南アのお金(ランド)

アフリカのお金には、動物が描かれていることが多いのが特徴です。そして50円や100円などの単位の小さいお金も紙幣(紙のお金)になっています。

それでは次回もよろしくお願いします。次号では、アフリカで出会った動物たちを紹介します!





2018年3月 南アフリカ新聞第8号

# SABONA

=サボナ(こんにちは) 鈴木 壮太



眠たそうなメスライオン



獲物に狙いを定める時の本気表情(メス)



きつね!?



ワイルドドッグ

いよいよ3月になりました。日本では学年末ということで、今年度の振り返りと、来年度に向けての準備をする時期ですね。そして私が初めて担任した学年(当時2年生)がもう卒業すると思うと、感慨深いです。卒業生の晴れ姿が見たかったです。素敵な卒業式になることでしょう。

そして今回は、南アにあるクルーガー国立公園(Kruger National Park)で出会った動物たちを紹介します。野生の動物をたくさん見るのをとても楽しみにしていたので、やっと行くことができ嬉しく思います。

こっちを見るオスライオン。ふさふさ。成長したオスは体が大きく、力は強いですが速く走ることはできません。そのため狩りはメスがします。オスはいつもゆっくり休んでいるように見えても、敵から家族を守るために必死なのです。



一番会いたかったサイ。  
(朝日を浴びながら寝ていた。)



近い!



ゾウのファミリー。水を飲むときは鼻から水を吸って、口にもっていきます。



急に動物が飛び出してくるので注意しましょう!



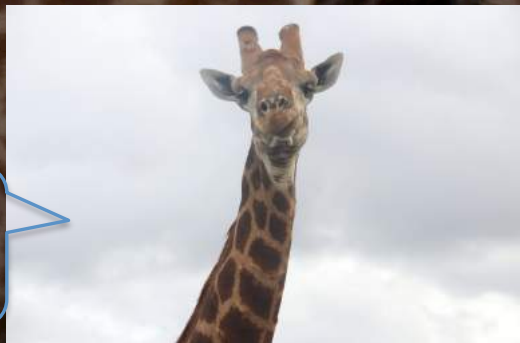
バッファロー



真っ青な鳥



よく見るインパラの群れ



キリン。車から見上げたときに見せたこの表情がお気に入りです。



みんな同じ方を向いています。ライオンが近くにいるため、警戒しています。

このように、アフリカには多くの野生動物が暮らしています。力強く、そして生き生きとした動物たちを見て、私もたくましくなりたいと思いました。





2018年4月 南アフリカ新聞第9号

# SABONA

鈴木 壮太

進級・進学おめでとうございます。新しいクラスの仲間との1年間が始まりましたね。わくわくしていたり、少し不安だったり、色々な気持ちが混ざっていると思いますが、良いスタートを切れるように、まずは自分の持ち物に名前を書きましょう！

さて、今回は南アフリカの子どもたちがどのように算数を勉強しているのか見てみましょう。日本と違うことがたくさんあります！

## 長〜い

みなさん、例えば数字の「8」は、どのように読みますか？

そうです、「八（ハチ）」と読みます。

英語では「eight(エイト)」です。

そして、スワジ語は「siphohlongo（シポヒョーンゴ）」と言います。

少しスワジ語だと長い気がします、まだ何とか覚えられそうです。

では、桁が大きくなっていくとどうなるでしょう。

【例 58】

日本語→五十八（ゴジュウハチ）

英語→fifty-eight（フィフティ-エイト）

スワジ語→emashumi lasihlanu nesiphohlongo

（エマシュミ-ラシヒャーヌ-ネシィポヒョーンゴ）

長い！普段スワジ語を使う子どもたちも大混乱！みんなどんどん算数が苦手に…。

$58 + 49 = 106$  ←これをスワジ語で言うと…

「ヒャガニ-サエマシュミ-ラシヒャーヌ-ネシィポヒョーンゴナエマシュミ-ラネ-ネソフィ-カグ-マリク-ルネソトウ-パ」となります。

## 算数セット発見！

なんと教室の片隅で、算数セットを発見しました！アフリカの先生はどのように使うのだろうか、うきうきしながら算数の授業を見ていましたが、結局使われることはありませんでした。日本ではブロックやおはじきなどを使いますが、こちらではそういうものは使わず、先生が口で説明して教えます。「これはこうだからこう！さあ、問題解くよ！」という風に。そして多くの子どもたちはよく理解できず、ぼかーんとするしかありません。でもきちんと問題を解かないと叱られてしまうので、隣の友だちの答えを写しながら何とか終えます。でも残念なことに、隣の友だちも間違っているのであまり意味がありません。なかなか児童が解き終わらない場合は、先生が答えを教えてしまいます。それが、途中のまま終わりにします。毎日だいたいそのような感じです。

## 算数セットを使ってみよう！

算数セットを使えば、もっとわかりやすい授業ができると思い、先生たちに実際にブロックを使ってもらいながら、算数セットの良さを伝えてみました。今後の授業で使ってくれれば良いのですが…。

そして私自身、2年生の授業では算数セットを使って授業を続けています。段々とブロックの使い方にも慣れてきたため、復習問題を出してみました。私「 $2 + 5$ はいくつですか？」

（児童はブロックを動かして答えを出す→勢いよく挙手をする児童発見！→指名する）

児童「4！！（真面目な顔で…）」

私「え！！（がーん…）」

でも、こういうことはよくあります。数字に慣れていないアフリカの子どもたちにとって、算数はとても難しいのです。





2018年5月 南アフリカ新聞第10号

# SABONA

鈴木 壮太

こんにちは！少し前の話になりますが、長期休みを利用して、ザンビアと、マラウイという国に行ってきました。今回はその2つの国を紹介（しょうかい）します。そしてアフリカの旅（おどろ）は驚き（おどろ）でいっぱいでした。

## ザンビア

ザンビアには世界的にも有名なビクトリアの滝（たき）が流れています。その滝をどうしても見てみたかったので行ってきました。

1回目に行ったときは、水量が少なく、滝、というより崖（がけ）！！



上空から！



間近で！



そして入る！

2回目に行ったときは、水量が多めでした。そして右の写真は「デビルズプール」という、滝の上で泳げる場所です。入って見ましたが、とにかくこわい！！

## マラウイ

マラウイは世界で最も（もっと）貧しい（ます）国の1つで、電気や水道が通っていない（ちが）地域も多く、人々の生活は（かん）かなり原始的（げんしてき）です。この国の人々は（ちが）一体どのような暮らしを送っているのか（く）気になっていた（き）ので、今回はマラウイで活動（きび）している友だち（かんきょう）に会いに行ってきました。厳しい環境（かんきょう）の中、たくましく生活（きび）していました。

友だちの家（なか）に着（き）き、お腹（なか）が空（す）いたので（はん）ご飯（はん）を作（つく）ることになりました。そう、まず（ひ）は火（お）起（お）こしから…。



お風呂（お風呂）に入りたく（お風呂）なりました。そう、お湯（お湯）は出（で）ません。電（でん）気で温（あ）めてお湯（お湯）を作（つく）ります。お茶（お茶）でも飲（の）もうかな。そう、蛇（じゅう）口（ぐち）からはこのよう（じゅう）に濁（にご）った水（みづ）が（で）てきます。

なんだか部（ぶ）屋（や）が暗（く）いな。そう、停（てい）電（でん）で真（ま）っ暗（く）。ろうそ（ろう）く（ろう）を（と）ちし（と）ちします。



みなさんこれ（これ）が何（なに）かわかりますか？（ずいせんしき）そう、トイ（トイ）レ（レ）です。水（みづ）洗（せん）式（しき）で（で）ないた（た）め、トイ（トイ）レ（レ）が外（あ）にある（あ）こと（こと）も。ど（ど）ちら（ちら）を向（む）いて（いて）す（す）れば（ば）良（よ）い（い）のか（か）迷（まよ）い（い）ど（ど）ころ。



美（う）しき（き）マ（マ）ラ（ラ）ウ（ウ）イ（イ）湖（こ）



釣（つ）り（り）人（にん）発（は）見（み）！



釣（つ）り（り）人（にん）か（か）ら、3（さん）匹（びき）の（の）魚（いし）を（を）売（う）って（て）もら（ら）い、焼（や）いて（いて）食（た）べ（べ）ま（ま）した（た）。合（あ）計（けい）150（150）円（えん）。（あ（あ）い（い）！）



2018年6月 南アフリカ新聞第11号

# SABONA

鈴木 壮太

さいきん じてんしゃ こわ  
最近、自転車が壊れました。ショックを隠しきれません。学校までは歩くと小一時間かかるので、早く何とかしたいところです。日本のしょうひん しつ 商品の質の高さを多くの場面で実感します。

さて、今回は、アフリカの生活でよく見られる光景を紹介します。

## アフリカあるある



乗っているバスがバス停に止まると、人たちが窓の外に急に群がり始め、果物や野菜、飲み物などを売りに来る。買わないと残念そうな表情で戻ってゆく。ピーナッツを買って、バスでのおやつにするのがおすすめ。



バスでなくても、車が止まると、勢い良く人がやって来る。品物を顔の近くまで持ってきてもう猛アピールしてくる場合がある。手で何度か退けても、また顔の近くまで持ってくる。買わない。



歩いているとよく、知らない子どもたちに「チャイナ!チャイナ!」「チョンチュンチョン!」と、からかわれる。いらっとしないで優しく微笑んであげよう。



モノトーンコーデにカラフルなバッグ。これぞおしゃれマスターという言葉が似合いそう。左手に持っているオレンジにも注目だ!



子どものお弁当が非常にシンプル。



見た目はいいけど、買っ  
てすぐ壊れた。(涙目)



随分と鮮やかな服装で出勤。  
周りの先生も大喜び!



子どもたちが、色々と手伝ってくれる。しかしその後、「手伝ったからお小遣いちょうだい。」と言ってくる場合あり。その場合はキャンディーをあげよう。

以上で、アフリカあるあるを終わります。まだまだたくさんあるので、また紹介します。



2018年7月 南アフリカ新聞第12号

# SABONA

鈴木 壮太

7月になり、日本はいよいよ本格的に暑くなってきましたか？

こちら南アは寒いです。日本から冬用の服をあまり持ってこなかった  
ので体が冷えます。

さて、今回は私が南アで行なっている日常の授業の様子を紹介します。こ  
ちらでは図工、音楽、体育の授業がほとんどありません。(カリキュラムの中  
にはきちんとありますが、担任の先生はあまりやりたがりません…。) そのた  
め最近<sup>さいきん</sup>は算数<sup>くわ</sup>に加え、図工の授業もしています。

## 図工



2年生のクラスでの図工の様子です。ちぎり絵の学  
習をしました。様々な色の折り紙を見せると子ども  
たちは興味津々<sup>きょうみしんしん</sup>でした。(写真：グループごとに何枚か  
好きな色を選んでいる様子。)



下の2枚の写真は、紙をちぎったり、その紙を貼り  
付けている場面です。のりの付け方や紙のちぎり方も  
教えます。算数の学  
習よりもみんな集  
中して取り組んで  
いました…。



自分たちの作品をクラスの友だちに  
紹介しています。しかし、子どもたちは  
あまり発表することに慣れていないの  
で、今回は作品名と、難しかったことの  
2つだけを言いました。



授業後は教室の後ろに作品を掲示しまし  
た。教室の後ろの掲示が華やかになりまし  
た。次回は紙を手でちぎるだけでなく、図工  
の時間を通して、はさみを使って紙を切る  
練習もしたいと思います。

## 算数



4年生での時計の読み方の授業。日  
本では、教室にも家にも時計がありま  
すが、こちらでは普段の生活の中に時  
計がないのでほとんどの児童が時計を  
読めません。(写真：10時45分に合わ  
せよう…！あれ？)



2年生、使ったブロックをきれいに片付  
けられるようになってきました。



3年生、引き算の筆算。線  
り下がりが難しいです。



4年生、分数の復習。5分の1と7分  
の1はどちらが大きいでしょう。



2018年8月 南アフリカ新聞第13号  
**SABONA**

鈴木 壮太

ジンバブエという国に行ってきました。マラウイの<sup>たいいん</sup>隊員と私、そしてガイドの3人で、ジンバブエに住む人々にもあまり知られていない、手付かずの大自然の中で2泊3日のトレッキングをしてきました。(私たち以外に登山客はいませんでした…)



ジンバブエってどこ？

ジンバブエは、南アの北に位置する国です。(青い丸が私の住んでいる場所で、赤い丸が登った山のあるチマニマニ国立公園というところです。)



いよいよ冒険スタート



まずは小さな商店街で2泊3日分の食料をゲット。(トマト、たまねぎ、しょうが、卵、米、缶詰、バナナ、クッキー、水)



車で国立公園の入り口まで向かう。今にも雨が降り出しそうな空模様。



何だかこわい。この先に何があるのだろうと緊張し始める。うきうきするというより、とてつもない不安感!!



登山開始!!

まず道がない。そして急。



休憩。クッキー食べる。



3時間後

山小屋到着。誰もいない。



よくあさ 翌朝

早朝から険しい山を登る。すでに足がものすごく痛い。



モザンビークとの国境

盗賊が国境を超えないように見張る場所。



川を渡る!

もう少し探検。濁った水をゲット。飲むとうっすら銅の味。



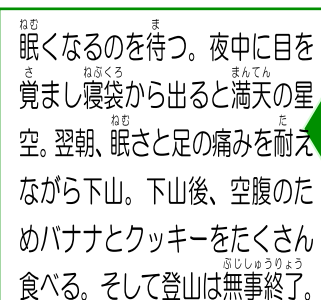
でも、まだまだ進む。



4時間後ついに頂上!



2泊目は洞窟に泊まる。



眠くなるのを待つ。夜中に目を覚まし寝袋から出ると満天の星空。翌朝、眠さと足の痛みを耐えながら下山。下山後、空腹のためバナナとクッキーをたくさん食べる。そして登山は無事終了。



火を起こして暖まる。



洞窟の中はこんな感じ。



2018年9月 南アフリカ新聞第14号

# SABONA

鈴木 壮太

今回は、南アのラーメン特集です。実は南アでは、大きな街に行くとラーメンを食べられることがあります。味はどうしても日本の方が良いです。しかし、それでもいいから食べたくなくなってしまいます。そんなアフリカで出会うラーメンとは一体どんな味なのでしょう。みなさんも食べてみたいラーメンを見つけながら読んでみてください。



## アフリカで出会ったラーメンたち



### ダウントウンラーメン（醤油）

ケープタウンにあるダウントウンラーメンというお店です。日本人が作っているのではなく、現地の黒人の方が作っているのが驚きです。見た目は味が濃さそうですが、食べてみると良い具合の味の濃さ。玉子もチャーシューも日本で食べる味によく似ていました。



### ダウントウンラーメン（味噌）

日本で食べる味噌ラーメンを少し薄くしたような味です。そしてピリ辛なところが気に入りました。

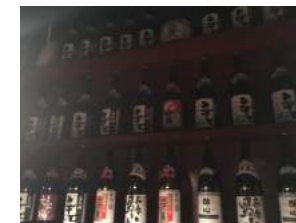


### ダウントウンラーメン（ピリ辛醤油）

こちらは唐辛子が入っていて少し辛めです。また、ラーメンの中に揚げ出し豆腐が入っていました。ちなみに、冷めないように蓋をして持ってきてくれます。



店内は左の写真のように落ち着いた雰囲気、日本のお酒が壁にたくさん飾られていました。



### 松屋（食べた味の種類忘れました。）

松屋といっても牛丼屋ではありません。首都プレトリアにある日本料理屋です。私は半年に1度ここに来て日本食を楽しみます。お気に入りは、いかげその唐揚げとおでん。



### ダルマ（醤油）

ダーバンという港町にある日本料理屋です。少し甘めの醤油で、ラーメンの雰囲気を味わえただけで満足です。



みなさんも今夜は、お近くのラーメン屋へ行ってみたいかがでしょう。



2018年10月 南アフリカ新聞第15号

# SABONA

鈴木 壮太

みなさんこんにちは。こちら南アは春から夏に向かい、本格的に暑くなってきました。そして日本を離れ、南アに来てから1年以上が経ち、残り半年で日本に帰ります。こちらでは、日々現地の人々の優しさに触れながら生活しています。

そこで今回は、いつもお世話になっている方の1人、ルーシーさんを紹介しします。

## 南アの母



写真の女性は、私が活動する学校の先生です。Lucy Minah Shongwe(ルーシー・マイナー・シヨングウェ)という先生です。苗字がシヨングウェ、ミドルネームがマイナー、そして名前がルーシーです。3人の子供を持つ母であり、小学2年生のクラスを担任しています。私はこのルーシーさんにとってもお世話になっています。まさに私にとって南アの母のような存在です。実は毎日お弁当を作ってきてくれて、いつもお昼ご飯と一緒に食べています。

【写真：ルーシーさんが作ってくれるお弁当。私の好きな魚と野菜を多めに入れてくれる。



## ルーシー家



休みの日にルーシーさんの家に遊びに行くことがあります。写真はワールドカップの日本戦を観戦している様子です。ルーシーさんの旦那さん(ノアさん)がブブゼラという南アの楽器を使って日本を応援していました。私が差し入れに持て行ったおやつは、観戦の興奮に紛れてほとんど自分で食べてしまいました。(反省)



ちなみにノアさんも学校の先生で、よく一緒に授業をします。【写真：5年生の重さの授業。0.5ℓと5ℓの水の重さを比べている様子。】

このご夫婦の存在がなければ、これまで南アで活動してこれなかったかもしれません。それくらい2人には感謝しています。

## おまけ



先日、1年に1度、しかも2週間という短い期間だけ、乾いた荒地が一面の花畑になるナマクアランドという場所に行ってきました。毎年必ず咲くわけではなく、雨季に十分に雨が降らないと花は見られません。また、花を見に行く際に晴れていないと花びらが開きません。そのため、今年は見られるかどうか少し不安でしたが、片道7時間かけて行ってきました！シーズンが終わりかけているときだったので、花の種類は少なかったのですが、それでもたくさんの花に出会うことができました。



2018年11月 南アフリカ新聞第16号

# SABONA

鈴木 壮太

今回は、私の住んでいる家を紹介します。

住んでいる家がこちら！



こちら(左)がお隣さんの家。

こちら(右)が私の家。



←協力隊の家には必ず鉄格子が付いている。お隣さんの窓には付いていない。肌の白い人はお金持ちだと思われるので、泥棒に入られないように、鍵閉めをしっかりとる。



安い電気コンロ。スイッチを入れるとき、ビリッと手に電流が流れるので注意。

←入口のドアを開けたところの部屋。ここではご飯を作ったり食べたり、何か作業をしたりする。

壁にアフリカの地図を貼っている。次はどこに行こうかな〜と夢を膨らませるのに便利。



毎晩ソファで寝ている。買って置いてよかった。

←もう1つの部屋。寝たり、ぼーっとしたりする。

ベッドには、蚊帳(蚊を避けるためのネット)が付い



ている。しかし、このベッドは買ってから1ヶ月で壊れてしまい、今は使っていない。(寝ようとするとき硬いバネが体に当たり、痛くて眠れない。)



シャワー、洗面所、トイレ。シャワーからはお湯が出る。(逆に夏の日中はお湯しか出ない。)他の協力隊の家はお湯が出ないことも多い。(水道すらないことも。その場合は井戸まで水を汲みに行く。)お湯はちょろちょろ〜としか出ないけど、出るだけ助かる。キッチンはないので、この洗面所で食器も洗う。(雷が鳴っているときに水道を使うとパチッと電流が流れる。)



このタンクから水が家に運ばれてくる。

家の前の庭。広くて開放感があるため気に入っている。夏は暑すぎて家の中にいられないことがあるため、そういうときは室内にいることを諦めて、木陰でコーラを飲んで涼む。通りすがりのキッズにコーラをくれと言われるので注意。





2018年12月 南アフリカ新聞第17号

# SABONA

鈴木 壮太

タンザニアに行ってきました。そこでキリマンジャロという山に登ってきました。

## タンザニアってどこ？



タンザニアは南アより北側に位置しています。今回はキリマンジャロの近くのモシという町で登山の準備をしました。モシには大きな市場があるのが特徴です。人々が親切で過ごしやすく、この町が気に入りました。(下の写真は市場の様子。雰囲気が良い。)



トマト、たまねぎ！



大量のスイカ！



どこかわくわくする

## キリマンジャロの高さ

スカイツリー  
634m

富士山  
3,776m

キリマンジャロ  
5,895m

## キリマンジャロ登山開始！

### 【1日目】



ガイド1人、ポーター（荷物を運ぶ人）5人、コック1人と共に登山開始。ポーターは肩にリュック、頭に約15キロの荷物を載せて登る。ちなみに登山客は小さなリュックだけで登る。(ポーターが荷物を持ってくれる。そして歩くペースがものすごく速い！素人は危ないので彼らと同じペースでは登れない。)



ちなみにコックとポーターは私たちより先に登り、目的地でテントを張って料理の準備をする。作ってくれる料理がとてもおいしい。



テントで食べる食事

歩いた距離 11km

歩いた時間 6時間

マチャメキャンプの標高2980m

### 【2日目】



どんどん登っていく。合言葉はスワヒリ語で「ポレポレ」(ゆっくりゆっくり)と、「ハクナマタータ」(なんとかなるさ)。そして高山病にならないように、朝、昼食後に高山病予防の薬を飲む。副作用で手足の指がしびれる。



左の写真はキャンプ場。雲と雲に挟まれている。ちなみに奥に見えるのはメルー山(4,565m)。次回タンザニアに行ったら登りたい。

歩いた距離 5km

歩いた時間 5時間

シラキャンプ標高 3840m



天空でキャンプ



レスキューヘリ→



頂上→

私もポーターに挑戦。  
しかし3メートル先で諦めた。



### 【3日目】

この日は高地に体を慣らすために、一度下がって再び登る。しかし残念なことに雨時々みぞれ。長時間歩いたので、靴、服、リュックの中がびしょびしょに。テントに入って暖まろうとしたらテントの中もびしょびしょで凍えた。しかし翌朝は見事な快晴に歓喜。

歩いた距離 7時間

歩いた時間 10km

バランコキャンプ標高 3,950m

### 【4日目～5日目】

高度が上がり、歩くスピードがさらに遅くなる。1日あたり4ℓの水を飲む。道中、ヘリコプターで運ばれる登山客を見て怖くなる。この日は午後4時にキャンプ場へ。高度が上がり、食欲を失う。景色は美しい。

歩いた距離 9時間

歩いた時間 9km

バラフキャンプ標高 4550m

この日は夕方5時に寝て、夜11時に起きて頂上へアタック！登っている途中、眠くなる。しかし寝ると死んでしまうので起きる。（気温-15℃）そして、ものすごい遅さで1歩1歩登る。しかしそれでも呼吸を乱してしまうので、休憩して呼吸を整える。そのまま無言で歩き続けていくと、後ろには朝日、さらに登り続けていよいよ頂上へ…。



頂上付近は氷河で覆われている。



久しぶりのきちんとした食事

ここが頂上！（5,895mの高さ！）そのときの私の正直な気持ちがこちら。

「早く下山したい…。」

達成感10% 疲労90%…。というのも、標高の高さと疲れで頭痛が出てきたため、達成感を感じる余裕なく下山。

一旦近くのキャンプ場まで戻り1時間の仮眠。そこから6時間かけて下山していく。

歩いた距離 27km

歩いた時間 14時間

ムウェカキャンプ標高 3100m

キャンプにたどり着いた時の安心感。10時間以上寝た。

### 【6日目】

たくさん寝たから体力も回復。頭痛もなし。快適に下山。無事終了。

歩いた距離 10km

歩いた時間 4時間

ムウェカゲート 1,640m

- 下山後に飲んだコーラが体にしみた。
- 息がしやすいことに気づいた。
- 達成感がじわじわ湧いてきた。
- 全歩行距離 62km（45時間）

### 【おまけ】

下山後にモシの町で偶然見つけた韓国料理屋さんの料理がおいしかった。



2019年1月 南アフリカ新聞第18号

# SABONA

鈴木 壮太

明けましておめでとうございます。

今回は、第二回アフリカあるあるです。(主に南アについて)

## アフリカあるある



1クラスあたりの児童の人数が多い。こちらは約70人のクラス。授業中は基本的にざわざわしている。後ろからは黒板の文字がほぼ見えない。その場合は必死に目を凝らす。



一方こちらはマラウイという国の小学校。1クラス200人なんてことも。椅子なし、机なし、教科書なし！そしてクラスの友だちの名前を覚えるのに1年かかりそう。



高学年になると授業中に電卓(盛りだくさんの機能)を使う。基本的な足し引き算に多くの時間がかかるため、電卓で解いてしまう。しかし7+5のような一桁の計算に電卓を使っている子もいるので注意！



器用に頭の上に物を乗せて運ぶのが得意。私も何度か挑戦してみたけど、まるでできるようにならない。



6×10の計算。1本1本、棒を描き、その後1から順に1本ずつ棒を数えていく。1問解くのにとにかく多くの時間がかかってしまう。



不思議なお菓子が学校の売店に売られている。食べきれない場合はこっそり授業中に食べる。手に持っているのはカラフルな砂糖のスティック。



カラフルな布を頭に巻いている女性が多い。ちなみにこの先生は歌がとても上手。



トタン屋根の教室。雨の日は雨音が響き渡り先生の声が聞こえにくい。窓が少ないので蒸し暑い。



ずいぶん小さい消しゴム。新しい消しゴムを買ったと、ちぎって他の友だちに分けてあげる。もしくはいつの間にかちぎられている。



裸足の子が多い。



雨の日に傘がない場合はビニール袋を被ってしのぐ。



写真を撮るときのポーズの種類が豊富。



2019年2月 南アフリカ新聞第19号

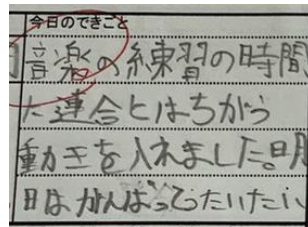
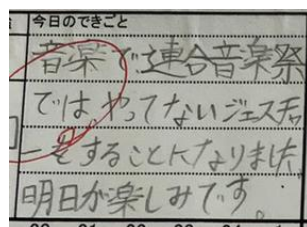
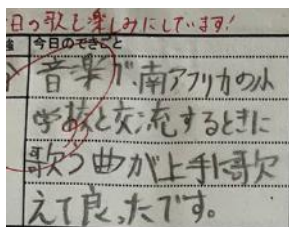
# SABONA

鈴木 壮太

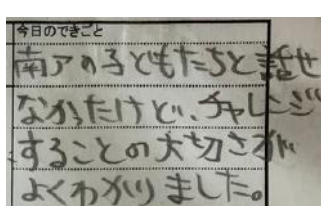
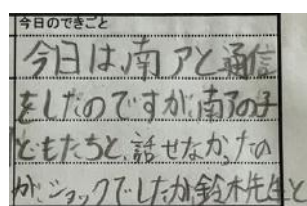
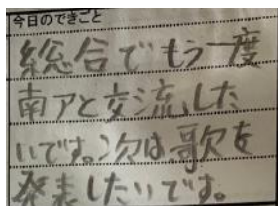
南アの学校で活動していると、子どもたちに日本についてよく聞かれます。「日本と中国は同じだね?」とか「日本にはどんな動物がいるの?」などなど。ということで、南アと日本の学校をテレビ電話で繋いで、お互いに交流してみることにしました。

## 日本の学校との交流

以前から日本と繋いでみたいと思っていたので、ようやくそれを実行に移せて嬉しく思います。今回は、高崎市立下室田小学校(群馬県)の6年生のクラスに協力してもらいました。



下室田小の子どもたちは、南アに歌を届けるために歌の練習をしたり、新しい振り付けを考えたりしてくれました。

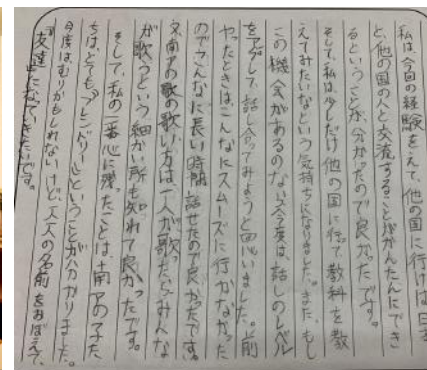


しかし南アの電波が弱く交流できず。次回に持ち越し。悔しい。

そして1週間後…ついにテレビ電話で交流することに成功!



- ① 日本の子どもたちがスワジ語で挨拶をすると、南アの子どもたちはとても嬉しそう。スワジ語の発音◎
- ② 日本の歌を聴く南アの子どもたち。初めて聴くメロディを楽しんでいました。同年代の子がピアノを上手に弾くのを見て歓喜。



- ③ お互いに質問し合っている様子。(好きな教科、科目の種類、何を食べるのか、好きな食べ物、寝る時間、最近ハマっていること、など。)
- ④ 交流後の感想。何より子どもたちの海外に対する興味、関心に繋がって良かったです。現地や下室田小の皆さんのご協力があり、このような機会を設けることができました。また、ぜひ日本と繋げることができるといいなと思います。

最後にひとこと：ありがとう！下室田小6年生のみんな！そして小林先生！



2019年3月 南アフリカ新聞第20号

# SABONA

鈴木 壮太

これが最後の新聞になります。今回は、これまでに撮った写真の中から、私のお気に入りの写真を紹介します。

## 日本のことが気になる子どもたち



①

① 子どもたちが日本語の本を開いてざわざわ。日本語は縦書きも横書きもできることを知る。

② 折り紙でカエルを折ってぴよんぴよんさせるのが好き。

③ 「なんで箸を使うのかな～。手で食べた方が簡単なのにね」と、言いながら練習。



②



③

## 日々の様子



休み時間が始まり、早く外に出て遊ぶように手招きして呼びかけてくる子どもたち。



久しぶりに木に登って、天空から下界の様子をしてみる。



下界の様子を見ながら、なぜか天空で着替え始める少年。



日本のビールをあげたらすごく気に入ったみたいで、あっという間に飲んでしまった。



空がきれい。

以上で終わりになります。これまで、お読みいただきありがとうございました。この経験を日本でも生かしていきます。